

庄原市行政評価シート

平成 **27** 年度評価

事務事業名		敬老会事業補助金			
実施期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度 (終期の設定のない場合は、終期を空白)	所管課	高齢者福祉課		
長期総合計画	04-02-03 心と体の健康づくりで命が輝くまち(保健・福祉・医療)	高齢者の自立支援	自立を支える地域づくりの推進		
予算科目	会計 01 一般会計	款 03 民生費	項 01 社会福祉費		
	目 02 老人福祉費	事業 1607 敬老会事業			
対象者	敬老会事業の主催団体		対象者数など	交付者数:1,380名(H25)	
根拠法令・計画等	第6期庄原市高齢者福祉計画 庄原市敬老会事業補助金交付要綱(平成17年7月8日 告示第198号)				
HPアドレス	http://www.city.shobara.hiroshima.jp/health/koreisha/post-27.html				

実施目的	高齢者の長寿を祝福して敬老の意を表し、あわせて地域福祉の増進を図る。
事務事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・補助対象者は、敬老会事業の主催団体 主催団体とは次に掲げる地域組織 ①市内の自治振興区及び地区社会福祉協議会等 ②地域で敬老会事業を実施するため結成された実行委員会等 ・補助基準 敬老会事業の対象地域について、庄原市住民基本台帳に記載されている者で、敬老会事業実施年度の12月末日現在において、75歳以上の高齢者数に、1人当たり1,440円を乗じた額(敬老会事業に要する経費が上限) 対象地域内に特別養護老人ホーム等の介護保険施設、医療機関又は社会福祉施設等の入所施設があり、施設入所者を事業対象としない場合は、当該入所者数を除く 敬老会事業の対象を76歳以上の年齢とした地域においては、補助金交付対象年齢は、当該地域における事業対象年齢 ・補助対象経費 ①会議費 ②消耗品費 ③通信料 ④報償費 ⑤記念品料 ⑥食料費 ⑦使用料及び賃借料 ⑧その他の経費で特に必要と認められる経費

年度別実績概要	
平成 24 年度	実施地区 81地区 対象人員 9,550人 交付額 13,744,428円
平成 25 年度	実施地区 86地区 対象人員 9,590人 交付額 13,739,580円
平成 26 年度	実施地区 80地区 対象人員 9,200人 交付額 13,219,453円

実績指標

(単位:千円)

事業費 (インプット)	項目	内容	H 24	H 25	H 26	合計
	事業費	補助金		13,745	13,740	13,220
						0
						0
		事業費計	13,745	13,740	13,220	40,705
財源	国県補助金					0
	地方債					0
	その他					0
	一般財源		13,745	13,740	13,220	40,705

実績 (アウトプット)	指標名称	単位	基準値	H 24	H 25	H 26	合計
	1 地区		地区		81	86	80
2							0
3							0
成果 (アウトカム)	1 参加者数(補助金対象者数)	人		9,550	9,590	9,200	28,340
	2						0
	3						0
備考	平成26年度の人数については、決算見込み額から人数を推計しているため、実人数と異なる。						

事務事業名	敬老会事業補助金	所管課	高齢者福祉課
-------	----------	-----	--------

評価項目		所管課評価	市民意見	評価委員会	評価分布			
分布は、A:+1,B:0,C:-1で総回答数で割り、小数点以下四捨五入。ただし、A-C又はC-AがBより多い場合は'A,C'に補正する					市民意見		評価委員会	
優先度		A	B	B	分布	平均	分布	平均
A	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が高い事業である。				4		2	
B	同じ分野の他の事業と比較し、優先度は中くらいの事業である。				4		5	
C	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が低い事業である。				1	0	0	0
認知度		B	B	B	分布	平均	分布	平均
A	対象者以外にも、おおむねの内容は知られている事業である。				0		1	
B	対象者には、おおむねの内容は知られている事業である。				6		6	
C	一部の者を除き、事業があることすら知られていない。				3	0	0	0
有効性		A	A'	B	分布	平均	分布	平均
A	費用に対して、効果・成果が高い事業である。				5		3	
B	費用に対して、効果・成果が中くらいの事業である。				2		4	
C	費用に対して、効果・成果が低い事業である。				2	0	0	0
受益者満足度		B	A	A	分布	平均	分布	平均
A	受益者(対象者)は、満足している事業内容である。				1		4	
B	どちらともいえない。				0		3	
C	受益者(対象者)が、満足できない事業内容である。(改善要望がある ほか。)				0	1	0	1
市民(納税者)納得度		B	A'	B	分布	平均	分布	平均
A	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外も納得できる事業である。				5		2	
B	どちらともいえない。				1		5	
C	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外は納得できない事業である。				2	0	0	0
代替性		C	B	B	分布	平均	分布	平均
A	収益性や技術面から民間での実施が難しく、市が実施すべき事業である。				3		2	
B	民間での実施も可能であるが、公共性・公平性などから市が関与すべき事業である。				3		2	
C	市の関与は委託や助成とし、民間等での実施を検討すべき又は市が関与する必要はない事業である。				3	0	3	0
まちづくり基本条例適合性		A	A'	A	分布	平均	分布	平均
A	市民(団体等を含む。)の自立を促進する事業である。				6		6	
B	市民の自立促進までは期待できないが、条例の趣旨(市民が主役のまちづくり)に沿った事業である。				1		1	
C	条例の趣旨に沿った実施形態となるよう、手法・内容を見直すべき(終了を含む。)事業である。				2	0	0	1
所管課評価		拡充して実施						
評価視点	敬老会事業を実施する団体を支援することにより、敬老会参加者の生きがいにつながるほか、地域福祉意識の醸成に効果があり、有意義な事業と考え、拡充して実施することについて意見を伺う。							
所管課が課題と考える内容	補助基準について、平成20年度において、高齢者1人あたり1,800円から1,440円に変更し、以降同額で実施してきた。年々高齢化率が上昇し、ひとり暮らし高齢者数も増加傾向にある中、平成29年度からは、要支援1・2の方の訪問介護や通所介護が総合事業に移行されることになっており、より地域の連携を強化し、地域の福祉力を醸成する必要性が高まってきているため、現行の基準が妥当であるか、再検討の必要性があると考えている。							
市民意見(プラモニ)		※市民意見は、意見数集計のみを評価とします。(プラモニとしての総括評価はありません。) ※全意見は、ホームページに掲載しています。						
意見数分布	現行どおり	拡充	縮小	終了	その他の見直し	総回答数		
	3	4	1	0	1	9		
主な意見	<p>【現行どおり】</p> <p>●高齢者がお互いについて話したり、仕事をしたりすることが大切だと思います。言葉は悪いですが、ただただと世間にかかわりなく生きていくより、死ぬまで社会にかかわりあい続けることが大切だと思います。自発的な行動が難しければ、周りがそうさせていく仕組みづくりができればと考えます。そのための援助、そして与えられる側もそれに対して行動することが必要です。【団体・法人登録者】</p> <p>●自治振興区の前算内の中で対応すればよいし、何故、市があらためて再配布みたいなことをするのか。【50代・男性】</p> <p>【拡大】</p> <p>●そもそも敬老ということは考えるべき問題だと思います。現在ある全てが先人達が創り上げたことであり大変な苦勞が有ったことと思います。その事に対し敬意を表する事は大切なことだと思います。【60代・男性】</p> <p>【その他の見直し】</p> <p>●少子化が叫ばれ、年代ごとの核家族化が進み、世代交代がうまく行われず、地域のコミュニティがうまくいっていない時代なので、全年代が集えるような事業展開が将来的には望ましく、それにより活気のある地域となり得ると思う。【60代・男性】</p>							

行政評価委員会評価	その他の見直し
------------------	----------------

※行政評価委員会の摘録(会議内容)は、ホームページに掲載しています。

総括意見

本事業は、高齢者を敬愛し、長寿を祝うとともに、高齢者の生きがいづくり、地域の見守りなどに資するものである。一方、参加率が低いことや実施主体の負担が大きいなどの課題もあり、持続可能で真に地域福祉の増進を促す事業となるよう、次の事項について見直しを検討されたい。

① 補助金の単価については、現行どおりが適当と考える。

② 地域の福祉力を高め、介護保険制度の変更に対応しうる制度とすること。

- ・ 高齢者の活動機会の確保、社会参加を促す別の手法への移行も検討すること。
- ・ 自治振興区交付金に統合し、地域活動と一体的な展開も検討されたい。

※委員会における最終的な評価として総括したものであり、最も分布の多い評価を優先するものではありません。

評価分布	現行どおり	拡 充	縮 小	終 了	その他の見直し
	2	1	1		3

各委員の意見

【現行どおり】

①主催団体の方々は、工夫しながら敬老会を実施されているようですが、出席率は低いように感じます。多くの人が参加でき、地域みんなで祝福し楽しい会ができればいいと毎年思っています。

②対象人数が多いので一人当たりの増額が、多額の予算増になり、今後高齢者数はさらに増加傾向の為、補助金総額も増加見込みであるので、増額については慎重に協議すべきではないか。高齢者の交流の場で運営スタッフへの支援、参加率の向上など、地域全体が福祉へ関心を持つ働きかけを充実していただきたい。

【拡充】

③敬老会のあり方については、他市においても模索している状況が窺えます。単に補助基準額の引き上げでということではなく、所管課が課題と考えている地域の連携、地域の福祉力醸成の方策を検討することが必要と考えます。

【縮小】

④・年1回の行事を楽しみにしておられる高齢者も多いとは思いますが、高齢者の増加に関わらず、参加者割合は低く、幅広い対応になっているとは思えません。

- ・ 対象年齢の引き上げ(80歳)も検討すべきと考えます。
- ・ 世話人の方も高齢化しており、地区毎の敬老事業の見直しも検討してみる必要があると思います。
- ・ 事業に出席されていない高齢者への対応を総合事業等で対応することが重要と考えます。

【その他の見直し】

⑤敬老会の取組みは、地域の行事としても、高齢者を敬う気持ちを具体化するものとしても非常に意義のあるものだと思います。ただし、地域福祉の増進としての本事業の意味から考えると、他にも優先すべき事業があり、(生活支援や介護予防等)、敬老会の単価は現行どおりとして、世代間交流、参加しない方への配慮等、内容の充実を図っていただきたい。

⑥この事業を実施している団体の多くは、自治振興区や自治会が行っている。その団体が地域連携とか福祉力情勢が高まっているとは考えにくい。反対に負担と感じているところもあるのでは？と、思います。実施目的から考えると一人当たりいくらでよりも他の方法があるのではないかと思います。

⑦敬老会の事業内容を、工夫し参加者の拡大をはかる必要があると考えます。従って、対象者(高齢者)のニーズを把握し、スタッフ(市担当課含む)が内容検討し見直しては如何でしょうか。総額予算は、現状維持が適当と考えます。(例)高齢者にポイントカードを配布し活動回数等により敬老会で景品と交換する。

今後の事業実施の方向性	
--------------------	--

詳細

備考